

令和元年度

事業報告書

【在宅医療・介護連携推進事業】

【在宅医療相談推進事業】



一般社団法人 徳島市医師会
徳島市在宅医療支援センター

Tokushima City
Medical Association

【在宅医療・介護連携推進事業】

(ア) 地域の医療・介護の資源の把握

①地域資源情報一覧の運用

【取り組み内容】

歯科医療機関や訪問介護事業所等の情報を一覧表にし、ホームページ上での公開や紙による配布により、医療・介護従事者や地域住民等への確かな情報を提供する。

【成果や課題等】

今年度は、掲載情報を随時更新しながら、地域住民や専門職に対し、紙による配布とホームページ上での公開を継続して行った。次年度は、掲載内容変更有無の確認や新規掲載の案内をするなど、最新の情報が提供できるよう全面的な更新を行う予定としている。

医療機関ガイドマップについて、平成31年度徳島県地域医療介護総合確保基金を活用し、冊子の刷新作業を行った。医療機関や居宅介護支援事業所等へ冊子の提供を行うと同時に、ホームページに掲載し情報提供した。

【地域資源情報一覧掲載件数】

歯科医院	110件
薬局	128件
居宅介護支援事業所	97件
訪問看護ステーション	28件
訪問介護事業所	91件
通所介護	59件
地域密着型通所介護	21件
認知症対応型通所介護	8件
短期入所生活介護	24件
通所リハビリテーション	21件
小規模多機能型居宅介護	9件
看護小規模多機能型居宅介護	1件



【医療機関ガイドマップ掲載件数】

診療所	236件
病院	45件



参考資料①

(イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

①多職種連携会議の開催

【取り組み内容】

在宅医療に関わる多職種（医師・歯科医師・薬剤師・訪問看護師・ケアマネジャー等13職種）が一堂に会し、在宅医療を整備する上での課題とその解決策、地域へ還元した取り組みの評価等について協議する場として開催。

【成果や課題等】

今年度は、『徳島市の在宅医療における現状・課題とその解決策』をテーマに、13職種等98名が参加した。グループごとに在宅医療における課題の抽出と整理を行い、最も意見の多かった「多職種連携におけるタイムリーな情報共有の方法と相互理解」について協議した。今後は徳島市PDCAサイクルにて解決策を導く話し合いをすすめていく。



参考資料②

②在宅医療整備ワーキンググループの開催

【取り組み内容】

多職種連携会議等で抽出された課題とその解決策について、より実行可能な解決策となるよう協議し、修正された解決策を行政及び各団体を通じて地域へ還元することを目的に開催。

【成果や課題等】

今年度は、徳島市在宅医療・介護連携推進協議会や、キーパーソン3研修会より挙げられた課題について、それぞれ関連する職能団体の代表が集結し解決策への議論を深めた。

①ACPの普及啓発に向けた具体的な方策、医療と介護に関わる多職種間のネットワークの構築について

13職能団体の代表が出席し協議した。ACPの普及啓発について、まずは専門職を対象としたACP勉強会の開催について検討していくことになった。多職種間のネットワーク構築については、各職能団体の活動を知ってもらうために、当センターホームページに、各団体の取り組みを掲載することになった。

②豪雨災害予見時における要配慮者への支援について

キーパーソン3の三職種(医師・訪問看護師・ケアマネジャー)と行政、酸素供給業者を交えて、支援体制構築に向けた意見交換を行った。多職種が共有できる防災マップ・情報先リストの作成や、災害を体験した専門職から学ぶ研修会を検討してはどうかとの意見が挙げられた。



参考資料③

③三師会在宅連携委員会の開催

【取り組み内容】

徳島市の医師会、歯科医師会、薬剤師会それぞれの在宅医療担当者が出席し、在宅医療整備への取り組みを情報共有し、連携体制を構築することを目的に開催。

【成果や課題等】

三師会それぞれの今年度の取り組みや、現状・課題について意見交換を行った。今年度の「三師会主催多職種のための在宅医療研修会」について、薬剤師会から講師を推薦すること等協議した。



参考資料④

④在宅医療に関する各種アンケートの実施

【取り組み内容】

各専門職や実際に在宅医療と介護を受けている患者及び家族に対してアンケートを実施し、医療と介護に関する率直な意見を把握することで、今後の取り組みに反映させる。

【成果や課題等】

多職種を対象とした「在宅医療」に関するアンケートや、医師、訪問看護師、ケアマネジャーを対象とした「医療と介護の連携」に関するアンケート、ケアマネジャーを対象とした「レスパイト入院に関するニーズ調査」を実施し、現状と課題を把握した。地域住民に対しては、多職種による出前講座の参加者や、TIZI-NET加入の医療機関を受診する患者を対象にアンケートを実施し、在宅医療に関する意識や現状等について情報収集した。

参考資料⑤

(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

① 在宅療養支援診療所24時間ネットワークの運用と 連携訪問看護ステーションとの連携

【取り組み内容】

在宅医療をシームレスに提供できる体制を継続するため、在宅医師同士が副主治医となるネットワークを運用し、医師の負担軽減を図るとともに、訪問看護ステーションとの連携により24時間対応可能な体制を整備する。円滑な運用推進を目的に連携会議を開催。

【成果や課題等】

毎月当番表を作成し、登録医師の輪番による副主治医制がセーフティネットとして機能している。また、登録医師と訪問看護ステーションとの連携会議では、普段の運用や連携における課題について意見交換を行った。今年度は、4ヶ所の訪問看護ステーションが新たに加入し、現在、33ヶ所の医療機関と、25ヶ所の訪問看護ステーションが連携している。



参考資料⑥

② 24mini(カンファレンス)の開催及び運用

【取り組み内容】

在宅療養支援診療所24時間ネットワークの機能強化を目的に小グループ化(4名の医師が参加)でモデル運用し、メーリングリストや年2回のカンファレンスの開催を通じて情報共有を図る。

【成果や課題等】

週毎に交代する副主治医制を実施しているが、副主治医としての往診実績はなかった。メーリングリストや年2回のカンファレンスを通じて、在宅医療に関する情報交換や、困難事例に対する相談、意見交換が行われた。



参考資料⑦

③ 在宅医療ネットワーク(TIZI-NET)の運用と 後方支援病院ネットワーク(BBN)との連携

【取り組み内容】

在宅医療を希望しつつも在宅主治医が見つからない方に在宅主治医を紹介する在宅医療ネットワーク(TIZI-NET)を運用。また、TIZI-NET登録医から在宅療養が困難となった場合の入院要請を円滑に行える後方支援病院ネットワーク(BBN)と連携を図り、在宅医療体制を整備することを目的に連携会議を開催。

【成果や課題等】

今年度のTIZI-NET利用実績は1件。TIZI-NETとBBNの連携会議では、TIZI-NET登録医の在宅医療実績報告やBBNの退院先状況アンケート等から、連携促進に向けて意見交換を行った。また、BBNへTIZI-NET登録医療機関等、在宅療養支援診療所の医療機能情報を再案内し、TIZI-NET登録医へBBN医療機能情報について更新情報を提供した。



参考資料⑧

④とくしまスクエア会議の開催

【取り組み内容】

医療機能の異なる医療機関同士（がん診療連携拠点病院・ホスピス・在宅医師）の縦の連携を強化するとともに行政の主体的関与を促し、地域全体で切れ目なく患者を支える体制を構築する。

【成果や課題等】

各病院の二人主治医制の院内周知や浸透の進捗状況、平成30年度 TIZI-NET実績及びTIZI-NET登録医の実績、各病院の実績及び取り組み、徳島市の救急医療の状況について報告があり、活発な意見交換が行われた。



参考資料⑨

⑤在宅医療周辺サポートネットワークの運用及び他科への拡充

【取り組み内容】

在宅医師等からの他科往診依頼に対応すべく、往診可能な専門医でネットワークを構築し、総合的に在宅医療が提供できる体制を構築する。

【成果や課題等】

今年度は泌尿器科ネットワークを構築し、6名の泌尿器科専門医が加入した。往診時、状態評価に必要なポータブルエコーを貸与してほしいとの意見があったため、今後検討する。また、耳鼻咽喉科医師の運用が開始から3年経過したため、未加入の医療機関へ依頼案内し、1件新規加入した。他科ネットワーク利用実績は、耳鼻咽喉科ネットワーク1件、皮膚科ネットワーク1件であった。



参考資料⑩

⑥ニコイチ会議の開催（地域包括支援センターと在宅医療支援センターの連携会議）

【取り組み内容】

徳島市地域包括支援センターと徳島市在宅医療支援センターが協働し、医療と介護を一体的に提供する体制の構築を目的に開催。

【成果や課題等】

各センターの現状や取り組みを情報共有し、意見交換を図った。地域包括支援センター職員の協力を得て開催している「多職種による出前講座」では、地域住民から高い評価を得ているため、引き続き協力を依頼した。今後もよりよい連携体制を継続しながら、地域貢献していく。



参考資料⑪

⑦在宅医療連携委員会の開催

【取り組み内容】

在宅医療・介護連携推進事業等において、特に医師に関わる取り組みについて意見交換、情報共有を図るため開催。

【成果や課題等】

在宅医療・介護連携推進事業及び在宅医療相談推進事業について、平成30年度事業報告と、令和元年度事業計画案について説明を行った。また、研修会の内容や在宅医療参入医師を増やす取り組み等について意見を募った。



参考資料⑫

(エ)医療・介護関係者の情報共有の支援

①ケアマネタイムの運用及び情報更新

【取り組み内容】

ケアマネジャーと医療従事者との連携促進を目的に、診療所・病院・歯科診療所・薬局・訪問看護ステーションごとに相談可能な時間帯や方法を集約した上で、ホームページ上に掲載し、ケアマネジャーへ提供する。

【成果や課題等】

今年度、掲載情報の更新作業を行い、診療所140件(北部43件、西部33件、南西部45件、南東部19件)、病院42件、歯科101件、訪問看護ステーション33件、薬局129件の最新情報をホームページに掲載した。ケアマネタイムアクセス数 857件であり、連携促進のツールとして有用であると捉えている。

参考資料⑬

②多職種連携情報共有システム「バイタルリンク」の運用

【取り組み内容】

患者情報をタイムリーに共有するため、H28年度より徳島県医師会が運用する「バイタルリンク」を活用し、多職種連携における情報共有ツールの一つとして運用。

【成果や課題等】

今年度92名の患者に対し、延べ946名の多職種と患者家族等がシステムを利用した。昨年度とほぼ同数の利用患者数であり、平成28年度以降、患者154名に対して、延べ1,406名の専門職等が利用した。また今年度は、希望する専門職に対してバイタルリンクの基本操作や応用方法を学ぶ講習会を開催し、利用促進を図った。



参考資料⑭

③共通連携「トクシノート」の運用

【取り組み内容】

平成27年度在宅医療整備ワーキンググループで作成した共通連携ノートをケアマネジャーや訪問看護師を通じて患者へ配布し、医療・介護関係者間で速やかな情報共有が行えるツールの一つとして運用。

【成果や課題等】

在宅医療支援センターや在宅介護支援センター、市役所の各窓口を設置し、追加する用紙はホームページからダウンロードしていただくよう案内した。また、専門職が参加する会議や研修会等で配布し、利用促進を図った。



参考資料⑮

(オ)在宅医療・介護連携に関する相談支援

①医療介護従事者からの相談窓口

【取り組み内容】

地域の医療・介護関係者から、在宅医療・介護連携に関する相談等を受け付け、連携調整や情報提供を通じて、多職種間の円滑な連携を支援する。

【成果や課題等】

今年度は、医師やケアマネジャー等の専門職から、延べ 541件の相談が寄せられた。昨年度より 11件減少したが、多職種連携ICTツールのバイタルリンク利用に関しての問い合わせや、医療機関の情報提供に関することや、研修会開催に関する電話での問い合わせが多かった。また、センター相談窓口としての利用拡大を図ることを目的に、案内チラシを作成し、専門職(医師・歯科医師・薬剤師・訪問看護師・ケアマネジャー)へ郵送した。

参考資料⑯

(カ) 医療・介護関係者の研修

① キーパーソン3の開催

【取り組み内容】

キーパーソン3(医師・訪問看護師・ケアマネジャー)の連携がより密となるよう、症例検討を通してお互いの距離感を掴み、患者を中心に一体となった在宅医療の提供ができることを目的に開催。

【成果や課題等】

今年度は「要配慮者への災害時支援」をテーマに、医師10名、訪問看護師9名、ケアマネジャー42名が参加した。徳島市危機管理課から避難のタイミングについて教えていただき、在宅酸素療法をしている高齢者への災害予見時について、誰が主体的に決定し、指示し、連絡を図るべきか討論した。さらに、在宅医療ワーキンググループへ繋げて議論を深めていくこととなった。



参考資料⑰

② ケアマネプラスの開催

【取り組み内容】

ケアマネジャーと医療従事者の連携促進を図るため、ケアマネジャーが在宅医療に携わる他職種の役割理解とスムーズに連携する繋ぐコツを掴む機会として開催。

【成果や課題等】

今年度は、入退院支援に関わるMSWとの連携促進を目的に、MSW19名、ケアマネジャー49名が参加した。徳島県医療ソーシャルワーカー協会 郡章人会長から、「ケアマネジャーとMSWとの連携に基づいた包括的な支援」について講演いただいた後、グループディスカッションを行い、普段の業務の中での疑問を解決する意見交換が行われ、有意義な研修会となった。



参考資料⑱

③ 三師会主催多職種のための在宅医療研修会の開催

【取り組み内容】

三師会員(医師会・歯科医師会・薬剤師会)及び在宅医療に関わる専門職の在宅医療に対する資質の向上と標準化を目的に研修会を開催。

【成果や課題等】

今年度は徳島市薬剤師会より推薦された、香川大学医学部附属病院教授・薬剤部長 芳地一先生より「医薬品のトレーサビリティを考える」をテーマに講演いただき、医師・歯科医師・薬剤師等、9職種75名が参加した。「あまり深く考えていなかった薬の流通について知ることができ、薬剤に対する知識が深まった」等の感想が寄せられた。



参考資料⑲

④在宅緩和ケア研修会の開催

【取り組み内容】

かかりつけ医の在宅緩和ケアに対する知識、技術の標準化を目指すと同時にがん診療連携拠点病院とかかりつけ医の顔の見える関係づくりを構築するため開催。

【成果や課題等】

「病院は、がんの状態をどう伝えているか?～病状説明から考える 病院と在宅の連携の在り方～」をテーマに徳島大学病院 食道乳腺甲状腺外科 武知浩和先生、「さり気ない意思決定 支援」について徳島県立中央病院 寺嶋吉保先生にご講演いただいた。緩和ケア座談会では、在宅医とがん診療連携拠点病院医師の率直な意見交換が行われた。



参考資料⑳

⑤在宅医療よろず勉強会の開催

【取り組み内容】

医師をはじめ、在宅医療に関わる多職種が、在宅医療制度や診療・介護報酬についての知識を深く理解することにより、適正な在宅医療の提供や、在宅医療に参入する医師の増加を図ることを目的に開催。

【成果や課題等】

前年度に引き続き、医療法人ゆうの森 業務サポート室長 江籠平紀子氏より、①はじめよう在宅医療～書類、カルテ記載、算定のポイント～ ②報酬でみる患者マネジメント～がん患者を例に～ についてご講演いただき、82名の専門職等が参加した。「明日からの業務に繋がる研修だった」「理解できていない部分が分かった」等、参加した専門職からは概ね好評だった。



参考資料㉑

⑥地域包括ケアシステム研修会の開催(徳島市主催)

【取り組み内容】

地域包括ケアシステムの構築を進める上で、在宅医療・介護連携推進事業とその他の事業との連携の必要性と多職種の役割について認識の共有を図ることを目的に、徳島市が主催で開催。

【成果や課題等】

三菱UFJリサーチ&コンサルティング 社会政策部長 上席主任研究員 岩名礼介氏を講師に招き、「地域包括ケアシステムとは何をするのか?」についてご講演いただき、多職種及行政等162名が参加した。「各職種が縦の関係だけでなく、横に繋がることで、徳島の地域に適応した地域包括ケアシステムが構築できると感じた」等の感想が寄せられた。



参考資料㉒

⑦各種研修会及び講演会等への参加

【取り組み内容】

外部機関主催の在宅医療に関する各種研修会、講演会に参加し、情報収集するとともに職員のスキルアップを図る。

【成果や課題等】

松山市医師会主催の「第10回四国在宅医療推進フォーラム我が街の在宅医療」に参加し、徳島市の在宅医療の現状・取り組み状況を発表するとともに、四国三市の在宅医療に関する情報を収集する機会となった。また、日本在宅医療連合学会に参加し、全国の在宅医療の先進事例が参考になった。



参考資料⑭

(キ)地域住民への普及啓発

①webを活用した在宅療養支援診療所及び在宅医療整備への取り組みの紹介

【取り組み内容】

年1回在宅療養支援診療所の医療機能・機関情報を更新し、「徳島市医師会在宅医療整備への取り組み」ホームページにて情報を公開。また、在宅医療・介護連携推進事業の取り組みをタイムリーにホームページへ掲載し、地域住民等への情報提供、普及啓発を図る。

【成果や課題等】

在宅療養に携わる医療機関情報の提供、在宅医療・介護連携推進事業等の取り組み報告を行った。加えて、各専門職団体が開催する研修会等の情報を掲載するなど、在宅医療に関する情報を収集し、発信・広報する機能としても運用しており、今年度ホームページへのアクセス数は延べ16,173件であった。前年度より1,851件(12.9%)増加しており、情報発信する役割は大きいと考えている。

参考資料⑮

②在宅医療に関する出前講座(多職種による出前講座)の開催

【取り組み内容】

地域住民が在宅医療・介護についての知識や情報を習得し、さらに理解を深めていただくことを目的に開催。センター職員が地域の集いに参加して行う広報活動や、多職種(徳島市医師会、訪問看護ステーション連絡協議会、理学療法士会、地域包括支援センター職員等)の協力のもと、多職種出前講座を行っている。



【成果や課題等】

1)在宅医療に関する出前講座の開催

八万・応神・佐古地区の婦人会、家族介護教室、津田地区住民の集い等に参加し、延べ156人の市民に広報活動を行った。また、徳島県シルバー大学校徳島校OB会会員174名に対して、医師・訪問看護師・ケアマネジャー・在宅医療支援センター職員が「在宅療養について」と題した多職種出前講座を行い、県内ケーブルテレビで放映された。

2)「認知症を正しく理解しよう」多職種出前講座の開催

中学校区それぞれの地域で活動する医師・訪問看護師・理学療法士から、認知症について専門的な視点からご講演いただいている。今年度は、津田・多家良・八万地区の3地域で開催した。延べ152名の市民が参加し、「楽しく理解できた」と高い評価を得ている。次年度も順次開催を予定している。



参考資料⑯

③在宅医療・介護パンフレット「とくしま市の在宅医療と介護」の配布

【取り組み内容】

地域住民が在宅医療を選択する際や必要なサービスを適切に選択するための情報ツールの一つとして活用していただくことを目的に適宜配布している。

【成果や課題等】

出前講座で配布したり、気軽に手に取っていただけるよう、当センター、市役所、市民病院窓口等に設置している。平成28年度4月より配布しはじめた8000部の在庫が終了となったため、次年度は徳島市が発刊する同様の冊子の作成に協力しながら、配布・広報することを検討する。



参考資料⑳

(ク)在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携

①徳島あんしんタッグの開催

【取り組み内容】

徳島市オリジナルの地域包括ケアシステムの構築を目指し、徳島市医師会と行政がタッグを組んで在宅医療の整備に取り組むための意見交換の場として定期的開催。

【成果や課題等】

今年度徳島市の人事異動について報告をうけ、以前より、担当交代の際に引き継ぎがうまくできていないと感じていることを説明し、あんしんタッグ理念の文書化を提案した。協定書締結は困難であるため、別の方法で再検討することとなった。



参考資料㉑

②四国四市医師会在宅部会 (web会議) の開催

【取り組み内容】

四国の県庁所在地における在宅医療の整備状況について情報共有を図り、取り組み状況を互いに還元することにより、より良い取り組みを行うための意見交換の場として開催。

【成果や課題等】

当会からは、医師会担当理事、事務局、行政職員が参加し、周辺サポートネットワークの構築や、小児在宅医療への取り組み等を説明した。退院支援ルールや個人情報の取り扱い、行政と医師会の連携、ICT連携等について意見交換を行った。



参考資料㉒

③四国四市医師会在宅医療・介護支援センター職員web会議の開催

【取り組み内容】

四国四市医師会の在宅医療・介護支援センターの職員同士が、実務者レベルでの顔の見える関係を深め、情報交換や相談を行うことにより、今後の事業展開への企画立案や問題解決につながることを目的に開催。

【成果や課題等】

今年度2回開催した。各センター運営状況の説明、医療資源情報の把握方法、県をまたいだ移住の際の対応や連携、次年度の取り組み、在宅看取りや終末期に関しての取り組み等について、実務者レベルでの情報交換を行った。業務における気付きや新たな取り組みへの参考となった。



参考資料㉓

④関係市町村との連携を図る会議等への参加

【取り組み内容】

徳島県や徳島保健所が主催する会議に参加し、近隣の関係市町村と事業実施等に関する情報の共有、連携を図る。

【成果や課題等】

徳島保健所主催の在宅医療・介護コーディネート事業に係る医療機関・介護支援専門員連絡会議「退院支援ルール」に関する会議、徳島県主催「在宅医療・介護連携推進事業担当者研修会」に参加した。課題や現状を知る機会となり、市町村関係者との意見交換など有益であった。

参考資料⑳

⑤視察研修対応・来館者との情報交換

【取り組み内容】

他市町村の医師会役職員や行政職員の視察を受け入れ、徳島市の在宅医療・介護連携推進事業等の取り組みを説明すると共に、他市町村の取り組みについて情報共有、意見交換を図る。

【成果や課題等】

今年度は、山口県宇部環境保健所職員、諫早市在宅医療・介護連携支援センター職員等、徳島大学病院研修医等が来館され、当センターの業務内容や連携方法、ネットワークについて説明・情報提供し、情報交換を行った。



参考資料㉑

【在宅医療相談推進事業】

①地域住民からの在宅医療に関する相談窓口

【取り組み内容】

在宅医療に関する市民向け相談窓口を設置し、在宅医療の利用方法等に関する相談から医療機関や地域資源の情報提供、また、必要に応じて適切な機関へ繋ぐ等のワンストップ窓口機能として関係機関と密に連携を図りながら対応する。

【成果や課題等】

今年度は、専門職を除く地域住民等から延べ 308件の相談が寄せられた。昨年度より 36件減少となったが、家族からの在宅医の紹介に関する相談や、在宅医療を受ける費用、在宅医療をはじめる際の手続き等の問合せが多かった。同時に介護保険申請も希望されたため、地域包括支援センターにつないだケースも数件あった。



参考資料㉒